

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

達成度（評価）

- A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	鳥栖市立弥生が丘小学校
1 前年度 評価結果の概要	①心・学び・健康のプロジェクトを「凡事徹底」で実践化に努める」ことについて ・「弥生っ子」育成のために、「凡事徹底」を観点として共通理解を図りながら、全職員が組織の一員として、学校、学年、学級経営等に取り組めるように更に努めていく必要がある。 ②「服務規律保持に努める」ことについて ・全職員が一体となって、教育の質の向上、服務規律保持等について互いに声を掛け合いながら努めてきたので、これからも継続して取り組んでいくことが重要である。 ③「小中一貫教育の充実」について ・研究発表会にむけて、職員がそれぞれの役割を意識しながら研究と実践に取り組むことができた。また、中学校へのつながりを意識した指導や中学校職員との連携を、今後も継続していきたい。
2 学校教育目標	自ら学び、やさしく、たくましく生きる「弥生っ子」の育成 ～凡事徹底で、気持ちのよい学校にしよう～PLUS+
3 本年度の重点目標	○心の教育の充実 ○確かな学力の習得 ○健康・体力作り ○特別支援教育の充実 ○安全・安心な学校 ◎小中一貫教育（小小・小中連携） ◎開かれた学校（地域と共に）

4 重点取組内容・成果指標					中間評価
(1)共通評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員75%以上。	・分かったことを論理的に説明したり、書いたりする活動や対話的な学びを授業に取り入れることで、学力向上をめざす。	A	・9月に全国学力・学習状況調査の結果を分析し、進捗状況を確認する研修を行う予定である。
	○校内研究の充実	○全教員が校内で研究授業を実施し、授業力向上に努める。 ○研究教科である算数において、学力調査（国・県）で県平均を上回る。	・算数科の研究授業等を通して、対話的な学びから深い学びにつながる授業展開の研修を深める。 ・タブレット端末を活用した授業づくりについて、研究を進める。	A	・2学期に行う4回の全体授業研究会では、講師招聘をして研究協議を行い、授業力向上を図る。 ・研究授業における授業改善の視点の1つとして、タブレット端末の有効活用を挙げ、研究する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケート「友達には優しくしたり、仲良くしたりできる。」の児童評価を90%以上。	・人権教育の視点をもった学級経営や授業に取り組む中で、児童一人一人を大切にしたい指導や支援に心がける。	A	・学校アンケート「友達には優しくしたり、仲良くしたりできる。」の児童評価は98%以上となった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校アンケート「学校は、いじめや生徒指導の問題等にきちんと取り組んでいる。」の設問に「そう思う」「やや思う」と回答した保護者の割合を合計で85%以上。	・言葉の使い方の指導を徹底し、未然防止に努める。 ・毎月、生活アンケートを実施し、実態把握を確実に行う。 ・職員連絡会において気になる児童の情報共有を行う。 ・事案発生時は、教育委員会への報告と共に関係した児童への指導及び支援、保護者への連絡等を確実に行う。	A	・毎月の生活アンケートを実施し、いじめの早期発見や実態把握ができた。 ・アンケートで気づいた情報、相談された情報を元に関係者で集まり、密な報道で迅速に対応ができた。
	○道徳教育の充実 ○地域のもの・人・自然を通した体験活動の推進	○授業参観等で、道徳の授業を全クラスで公開する。 ○県主催文化事業、地域人材、PTA活動等の連携による体験活動を積極的に取り入れる。	・学級担任が、授業参観で保護者に対して年1回、道徳の公開授業を行う。 ・学校行事、学年行事の中に、様々な体験活動、交流活動を計画的に位置付けて、積極的に交流を行う。	A	・各学年のフォルダに、ワークシートや資料等を保存した。 ・今年度中に学級担任全員が道徳の公開授業を行う予定である。 ・計画していた地域との交流活動（お茶摘み、ランドゴルフ、普遊び体験など）を行うことができた。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●学校アンケート「運動したり遊んだりして体を十分に動かしている」児童を80%以上（保護者・児童対象のアンケートで検証）。	・スーパーティーチャーと連携し、職員向けに体育学習の実践紹介等を行い、楽しい体育学習を学校全体に広げていく。 ・体育委員会を中心としてイベントを企画し、体を動かす楽しさを味わわせる。	B	・スーパーティーチャーから資料や実践の紹介をもらい情報を共有することができた。 ・コロナの感染拡大防止のために、イベントを実施することができなかった。
	○望ましい生活習慣の形成と食育の推進	○早寝、早起き、朝ごはんの習慣化できた児童を80%以上。 ○給食の残菜率は6%以下。	・基本的な生活習慣を身に付け、健全な心身の発育や発達を促す。 ・給食、食育指導の充実を図る。	A	・ほけんだよりや掲示物で、早寝・早起きの大切さや、熱中症予防の面から、朝ごはんの有効性などについて知らせ、児童、保護者に啓蒙した。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・通常の施設時刻を昨年度よりも早め、退勤時刻を意識した働き方を徐々に定着させていく。 ・職員会議、職員連絡会において、協議内容を事前に把握し、話し合いの時間を短縮を図る。	B	・職員間の連絡事項を、パソコン上での掲示板にしたことにより、職員連絡会の時間を短縮することができた。 ・コロナ対応等が重なり、なかなか業務改善につなげることができなかった。
	○定時退勤日（金曜日）の徹底	○定時退勤日に18時施設を5月以降徹底する。	・保護者や地域への周知と共に教職員には、定時退勤日を掲示物や配布物等で知らせ、意識改革、行動化を図る。	B	・18時施設を目標に取り組んでいたが、達成できないときが何回もあった。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・実践事例集をもとに、授業作り、教具の検討を行う。 ・参観日に、授業を公開する。 ・学級通信・学年通信・学校HPで教科「日本語」の取り組みを紹介する。	A	・各学年のフォルダに、作成したワークシートや資料等を保存した。 ・日曜参観で、約40%の学級で教科「日本語」の授業公開を実施した。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎マナー教室で、自分が頑張っていることを具体的に言える児童の割合90%以上	・日頃から、弥生が丘小学校の「めざす子どもの姿」について意識させる。 ・マナー教室に向けて、児童が頑張っていることを再確認させるとともに、意識の継続を図る。 ・体験活動では、活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・マナー教室を行い、ほとんどの児童が、弥生が丘小学校の「めざす子どもの姿」について、自分が頑張っていることを答えることができた。 ・計画的に体験活動を仕組むことで、児童は、見直しをもって、意欲的に活動に取り組むことができた。
○不登校傾向や問題行動等への対応	○問題行動の未然防止及び迅速な対応掲載	○学校生活アンケート「学校は楽しい」の設問に「そう思う」「やや思う」の割合を合計88%以上。	・校内体制を整え、学期1回以上、検討会や支援会議を設ける。また、保護者には、支援的な立場での相談体制を受け付けて、問題の早期解決につなげる。 ・生徒指導連絡会（週1）による学校全体の情報共有と指導の統一を行う。	A	・週1の生徒指導連絡会にて、学校全体で問題行動や事例を共有し、指導の統一を行うことができた。 ・問題行動があった際には、生徒指導担当教諭も含め、実態把握と指導を迅速に行うことができた。
○服務規律保持	○交通安全事故の防止 ○危機管理意識の向上	○交通安全事故、交通違反を0件にする。 ○全職員が危機管理マニュアルを即座に見ることができるようにする。	・服務規律に関する通知文をファイル化して周知を確実に行う。 ・「服務指導0の日」を活用して交通事故発生事案の状況説明をしたり、鳥栖スマートドライバーカードを配布したりして、交通事故防止への意識を高める。 ・校内研修会を実施し、危機管理意識を高める。	A	・服務指導の日・0の日を活用して、服務規律を守る意識の継続を行うことができた。 ・夏季休業中には、外部講師を呼んで、服務規律に関する研修会を行う予定である。

●・・・県共通 ★・・・鳥栖市共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育